

HEART TO HEART

We Are One

J-WAVEナビゲーターが昨年発生した東日本大震災の被災地に赴き、現在の様子や支援の状況、そこで感じた希望などをお伝えする連載企画。
第16回は松原広美が宮城県女川町へ。震災によって勉強する場を失った子どもたちに学びの場と居場所を提供する放課後の学校「コラボ・スクール」取材しました。

Photo:玉井幹郎



第16回

navigator

松原広美

place

宮城県女川町
コラボ・スクール
女川向学館



東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県女川町で、夢や進学をあきらめず子どもを出さないことを目指して昨年7月からスタートしたコラボ・スクール「女川向学館」。その活動を取材するために、松原広美が女川町を訪れた。

「コラボ・スクールの活動は、被災地におけるひとつの希望だと感じました。大人でさえ震災後の感情と向き合うのが難しいことがあるのに、多感な年ごろの子どもたちがどうやってそれを乗り越えるのか。そんななか、彼らは「女川向学館」という家とも学校とも違う空間で学習し、自分が住む世界を広げる講師やボランティアスタッフと出会うことで、前に進むきっかけをつかむことができると思います。ただ学習するだけでなく、子どもたちが何かを得られる場になっているのは間違いないと感じました」

コラボ・スクールでは、仮設住宅での暮らしで十分な家庭学習環境を持つことができない子どもたちのための学力向上だけでなく、人との出会いや交流などによるキャリア学習の機能も担っている。「人との出会いは、未来への可能性を広げることにもつながる意義のあること。運営のNPOカタリバ代表理事 今村久美さんが仰っていましたが、コラボ・スクールが明確な解決策になるとは断言できないし、震災から1年8か月が経つたいまでも活動における正解はないと思うんです。ただ、長い時間を経たあとで振り返ったときに、『女川向学館』で学んだ子どものおかげで、日本を背負って立つようなリーダー的な人が誕生すれば、きっと世界は大きく変わる気がします。想像を絶するような逆境を乗り越えることができた人は、人の痛みや悲しみかわかる強い人になるはず…。この取り組みが、そんな人を育てる場所になっていくことを心から願っています」

松原広美

LOHAS SUNDAY
every sun. 6:00-9:00

[LOHAS SUNDAY]ナビゲーター。国際環境NGO「サフライダー・ファウンデーション・ジャパン」理事兼事務局長を務める。その一環で、被災地ボランティアにも参加。

コラボ・スクール 女川向学館

NPOカタリバが主催する、小中高校生に向けた放課後の学びの場。昨年7月に開校し、地域の人々と力を合わせながら、全国からの寄付やスタッフの協力のもと運営している。現在の生徒数は、女川町の中学校の3割にもなる約200人。今年1月には右手県大船町に2校目となる「大船向学館」が開校した。www.colabo-school.net

1/小学5年生の国語の授業風景。この日は、カナダを拠点に活動するアーティストの武谷大介さんが特別に参加し授業を行った。通常の授業でも、複数の講師がチームを組んで生徒に対応している。2/NPOカタリバの代表理事、今村久美さんとお話を伺う。カタリバでは、首脳層を中心とした高校生などに出向き、若年層の可能性を引き出すための対話型ワークショップを行っている。3/選別所としても使われている女川第一小学校。校舎には仮設住宅が並び、「女川向学館」は校舎の1階部分を利用している。4/子どもたちの多くは送迎バスで登下校。小学校や中学校のスクールバスとの連携により、各学校から直接「女川向学館」へ向かうことができる。5/スタッフが常駐している自習室であり、受験を控えた生徒にとっても欠かせないスペースになっている。